平成 29 年度

教育研究員研究報告書

美術

東京都教育委員会

目 次

Ι	研究主題設定0)理由	• •	•	•	•	•	•	•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	1
П	研究の視点・・		• •	•	• •	•	• (•	•		•		•	•	•	•	•	•	•	•	2
Ш	研究仮説・・・		• •	•	• •	•	• •	•	•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	2
IV	研究方法・・・		• •	•	• •	•	•	•	•	• •	•		•	•	•	•	•	•	•	•	3
V	内容の概要・・		• •	•	•	•	• •	•	•	• •	•		•	•	•	•	•	•	•	•	4
VI	研究構想図・・		• •	•	• •	•	• •	•	•		•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	5
VII	検証授業・・・	• • •	• •	•	• •	•	• •	•	•		•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	6
VIII	成果と課題・・			•		•		•	•		•		•	•	•	•	•	•	•	• 4	24

研究主題

生徒の実感的な理解を深める指導の工夫

I 研究主題設定の理由

本研究は美術を通して、生徒に身に付けさせたい資質・能力を定着させるために、生徒の実感的な理解をどのように深めていくか、ということを目的としている。

「特定の課題に関する調査(図画工作・美術)」(国立教育政策研究所教育課程研修センター平成23年度実施)によると、「美術の学習が好き、大切である」という意識をもっている生徒は約6割から7割、「美術の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つ」という意識をもっている生徒は約7割から8割と、生徒の美術に対する関心・意欲は比較的高いといえる。しかし「美術の学習は普段の生活に役立つと思いますか」に対して肯定的な回答をした生徒は5割を下回り、「美術の学習は、将来の生活や社会に出て役立つと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は約5割となっており、肯定的な回答の割合が低くなっている。

この結果から、生徒は「美術の学習は好きであるが、学んでいることがふだんの生活や、将来の生活 や社会に出て役に立つとは考えにくい」という意識であることが読み取れる。

また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会 平成28年12月21日)でも「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを意識しながら、自らの能力を引出し、学習したことを活用して生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的にいかしていこうという面からみた学力には、課題がある」と述べられており、美術を学ぶことを通して、どのような力を身に付けていくか、また生活や社会における関わりを見いだしていくことは、現在最も取り組むべき課題といえる。

中学校学習指導要領解説美術編(平成 29 年 6 月)の改訂の趣旨では、美術科の課題として、「感性や想像力を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することに関しては、更なる充実が求められている」と述べられており、上記に示された「表現と鑑賞の関連」、「生活との関わり」、「美術文化」と教科のあらゆる面において、実感的な理解を深めることが必要であると記載されている。子供たちの姿を考えたとき、美術の授業で学んだことをきっかけに、身の回りにあるものの美しさや面白さに気付いたり、「もっとこうすれば更にによくなる。」というような思いをもったりするためには、授業の中で「なるほど」、「本当だ」、「面白い」、「不思議だ」というように、いかに実感できるかが重要になってくると考える。心から思うことができれば、印象に残り、印象に残れば、見るものや出合うことに対して新しい視点で捉えられるようになるのではないかと考える。

そこで、本教育研究では、生徒の実態や各地区の研究の様子も踏まえ、上記の課題の解決を目指す一つのキーワードを「実感的な理解」であると考えた。

本部会では、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な 方策等について(答申)」(中央教育審議会 平成28年12月21日)の第2部第2章各学校段階、各教科 等における改訂の具体的な方向性及び中学校学習指導要領解説美術編(平成29年6月)から、「実感的 な理解」を「知性と感性の両方を働かせて、対象や事象を捉えること」、「生徒一人一人が自分の見方や 感じ方の変容に気付くこと」、「美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えること」と定義した。

なお、このうち「知性と感性の両方を働かせて、対象や自称を捉えること」に関しては全ての課題で 意識・実践されていくことを目的としているが、「生徒一人一人が自分の見方や感じ方の変容に気付くこ と」、「美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えること」の二つに関しては、長期的な 視点で育成していくものも含まれるため、必ずしも毎時間の達成をねらいとするものではない。

実感的な理解を深めるために、諸感覚をつかって体感する場面を設定したり、自己の内面の変容に気付く場面を設けたり、題材を生活や社会と関連付ける等の指導の工夫を行うことにより、生徒が美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えることができるのではないかと考える。

Ⅱ 研究の視点

本研究では「造形的な視点をもち、美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えることができる生徒」と「自己表現をもとに自己を形成し、自分の見方や感じ方を客観的に把握し、認識できる生徒」の2点を目指す生徒像として設定した。

- 1 「造形的な視点をもち、美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えることができる生徒」「造形的な視点」とは造形を豊かに捉える多様な視点である。中学校学習指導要領解説美術編(平成29年6月)に記載されているように、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことである。ものと同本研究ではこの「造形的な視点」によって、様々な対象や事象のよさや美しさ、工夫などを感じ取り、生活や社会のなかの美術の役割や重要性に気付くことができる生徒を目指す。美術を自分の生活や社会と結び付けて捉えることができる資質・能力を育むことによって、生涯にわたり美術を愛好し、主体的に美術と関わっていくことができる生徒の育成につながると考える。
- 2 「自己表現をもとに自己を形成し、自分の見方や感じ方を客観的に把握し、認識できる生徒」 作品などの創作物、ワークシートへの記述や発言などの自己表現を通して、自分の内面や思考と向き 合ったり、材料や道具との関わりで試行錯誤を重ねたりしながら、自己形成ができる生徒を目指す。ま た、学習を通して自分の内面や思考の変容に自ら気付いたり、他者との関わりの中で気付かされたりす ることで、生徒の自分自身を客観的に捉える力や、多角的な視点で物事を捉える力の育成を目指す。

Ⅲ 研究仮説

体感する場面を設定し、題材を生活や社会と関連付けたり、内面の変容に気付く場面を設けたりするなど、指導方法の工夫改善を行うことで、生徒の実感的な理解を深めることができるのではないか。

生徒の実感的な理解を深めるためには、知性と感性の両方を働かせて、対象や事象を捉えさせる指導方法の工夫改善が必要であると考える。

そのために、例えば実際に実物を見せることで大きさや質感などを感じさせたり、直接素材に触れさせることで感触を味わわせたりしながら、学習内容を知識だけでなく体の諸感覚を使って実感し、理解させる場面を設定する。

また、生徒が美術の役割や重要性に気付き、美術が身近なものであるとイメージしやすいように、生徒の生活実態に即した題材設定や、美術と社会を関連させて考えさせる場面設定など指導の工夫をする。 さらに、生徒が自分自身の内面を客観的かつ意識的に捉えられるよう、学習前と比べて自分の見方や感じ方が変化したことを実感したり、学習の理解が深まったことに気付かせたりする場面を、学習の中で意図的に設ける。

このような指導方法の工夫改善により、生徒の美術に対する興味・関心を高め、生涯にわたり美術と 主体的に関わっていく態度を育むことにつながると仮定し、具体的な授業や手だてを検討、立案、実施、 さらに実施後の検討を重ね明らかにすることを研究のねらいとする。

Ⅳ 研究方法

実践研究において、「体感する場面を設定する」、「内面の変容に気付く場面を設ける」、「題材を生活や 社会と関連付ける」ことの3点を視点とし、それぞれについて手だてを考え、授業の中でその効果を検 証する。

1 体感する場面を設定する

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会 平成28年12月21日)において、子供たちの置かれている生活環境がこれまでと大きく変わってきており、こうした環境の変化を踏まえて、実際にものに触れて感じることや体を使って体験する活動、伝統や創造の視点から造形や美術を捉える活動などを重視したり、伝統的な生活環境を活用したりするなど、学校教育において取り上げなければ出合うことのない教材や活動を提供することも学校教育の役割の一つであるとしている。そこで手だてとして、制作のみではなく、鑑賞の授業など様々な場面で体感できる場面を積極的に設けることで、生徒は今までの学習や経験を活かし、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることができるのではないかと考える。美術科でいう知性とは、学習したことや生活の中で経験したことなど、生徒一人一人が今までに身に付けてきたものを指し、感性とは体の諸感覚で感じることや喜怒哀楽を直観的に感じる人間の能力などを指すと考え、それらの両方が作用するような指導を、題材や教師の声掛け等様々な方法で工夫をすることで、生徒の実感的な理解を深めることにつながると考える。

2 内面の変容に気付く場面を設ける

生徒が日々の活動の中で、自分自身のものの見方や感じ方の変容に気付くことが大切である。中学校学習指導要領解説美術編(平成29年6月)には、「学校教育である美術科における鑑賞の学習は、生徒にとって楽しみや喜びでなければならない。」と記されている。その中で生徒一人一人が自分の見方や感じ方の変容に気付いたり、見方や感じ方が深まることに喜びを感じたりしながら、自己の内面を豊かにし、情操を培い豊かな人間性の形成に寄与していくとしている。美術科の授業を通して自分自身の感覚でものごとを捉え、心の動きや自分の考え方、表現のよさについて知る過程を経験することで、学習が進むにつれて変化する自分の内面を感じることができると考える。例えば、作品鑑賞の前後で自分の考え方の変容に気付けるよう感想や意見をまとめる時間を設けたり、作品制作の途中で生徒同士の鑑賞会

や中間講評会を設けるなどして表現の変化を感じ取ったりするなどの活動が挙げられる。これらを積み重ねていくことで、新しく学習する内容が更に深く理解されるのではないだろうか。また、他者との関わりの中から自分自身について気付かされる場面が設けられることで、客観的な視点からも自分自身についての気付きが深まると考える。

3 題材を生活や社会と関連付ける

他教科や生活の中での体験や発見から発展していく題材設定、または美術科での学習内容が他教科や生活の中での活動に活かされていく題材設定の工夫に重点を置き、授業に取り入れる。中学校学習指導要領解説美術編(平成29年6月)では、生徒が学んでいることと社会や生活、自分の将来と結び付かないという課題を挙げている。美術科での学習内容が、学びを進めていく中で他教科や普段の生活へとつながりをもつことで、制作や鑑賞の授業がその授業内のみで完結するのではなく、生徒の社会や生活、将来へと結び付き、美術や美術文化との関わりに対する生徒一人一人の姿勢に変化をもたらすのではないかと考える。

生徒の「理解の度合」は、一人一人異なるものである。そこで、授業の中で生徒一人一人が「実感的な理解を深められたか」を授業者が把握する視点として、授業中の観察のみではなく、学習の過程を様々な形で記録し、後々振り返られるように残しておく工夫が必要である。

また、文章でまとめさせる際には、見立てたり、自分で置き換えたりして言葉を選ぶなど、まとめ方を工夫することで活動が実感的な理解につながると考える。作品として残す場合でも、今までに学習した知識を活用したり、造形的な視点から対象について考えた過程が残るよう、制作の記録を残しておいたりする取組が必要である。このような場面を積極的に設け、生徒の変容を教師も積極的に確認することができるよう授業を展開する。

Ⅴ 内容の概要

1 基礎研究

先行研究の分析・検討

以下の参考文献から、本研究の裏付けとなる内容を調査・検討し、本研究の根拠とする。 (主な参考文献)

- (1) 「特定の課題に関する調査(美術)」(国立教育政策研究所教育課程センター 平成23年)
- (2) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」(中央教育審議会答申 平成28年)
- (3) 「中学校学習指導要領」(文部科学省 平成29年6月)
- (4) 「中学校学習指導要領解説 美術編」(文部科学省 平成29年6月)

2 実践研究

研究主題・仮設に基づいた題材研究、題材開発を行い、前述した手だてを講じた指導方法で授業を実践する。また、検証授業によって、指導方法が有効であったかを検証及び分析し、研究協議で成果と課題を明らかにする。

VI 研究構想図

教育研究員共通テーマ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

現状の課題

<教科>

感性や想像力を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することに関しては、更なる充実が求められている。 (平成29年6月 中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省 P6))

<生徒>

- ・ 学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的にいかしていくという面から見た学力には、課題がある。(平成28年 答申 第1部 第1章 これまでの学習指導要領等改訂の経緯と子供たちの現状)
- ・ 「現在、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、 教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるという実感を持てるよう、 指導の改善・充実を図ることが求められている。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」 (中央教育審議会 平成28年12月21日 第2部 第2章 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性)

中学校美術科で求められていること

生活や社会の中で生徒一人一人が造形的な視点をもって、対象や事象を捉えることができるよう学習を進め、これまで気付かなかった美術の働きがどれほど豊かなものかということについて実感できるようにすること。 中学校学習指導要領網税美術編 (平成29年6月)

目指す生徒像

- ・ 造形的な視点をもち、美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えることができる生徒
- ・ 自己表現を基に自己を形成し、自分の見方や感じ方を客観的に把握し、認識できる生徒

<研究主題>

「生徒の実感的な理解を深める指導の工夫」

実感的な理解とは

◎ 知性と感性の両方を働かせて、対象や事象を捉えること。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」 (中央教育審議会 平成28年12月21日 第2部 第2章 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性)

- 生徒一人一人が自分の見方や感じ方の変容に気付くこと。
- 美術の役割や重要性を自分の生活や社会と結び付けて捉えること。

研究の仮説

体感する場面を設定し、題材を生活や社会と関連付けたり、内面の変容に気付く場面を設けたりするなど、 指導方法の工夫改善を行うことで、生徒の実感的な理解を深めることができるのではないか。

視点

・体感する場面を設定する ・内面の変容に気付く場面を設ける ・題材を生活や社会と関連付ける

Ⅷ 検証授業

〔検証授業 1〕

1 題材名 「イメージを形に」

A表現(1)ア B鑑賞(1)ア 共通事項(1)ア イ 対象 第3学年

2 題材の目標

- ・「香り」を形や色で表すことについて、自らの考えや想像を発展させ、作品の世界観を深く味わう。
- ・作品の鑑賞を通して多様な表現方法を知り、作品制作を通して自分自身の価値観に気付づき、表現への理解を深める。

3 題材の評価規準

ア 美術への関心・ 意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ鑑賞の能力
①美術の創造活動の喜び	①「香り」を基に想像力	①描画の特性を生か	①形などの特徴や印象
を味わい、目的を考え	を働かせて、形や線な	し、表したいイメー	などから全体の感じ、
て表現することに関心	どの効果を活かして	ジをもちながら自	本質的なよさや美し
をもち、画材の特性を	単純化や省略、強調な	分の表現意図に合	さ、作者の意図や創造
生かそうとしている。	どを考え、創造的な構	う新たな表現方法	的な表現の工夫を感
②「香り」を基に、主体	成を工夫し、心豊かな	を工夫するなどし	じ取り、自分の価値意
的に創造的な構成を工	表現の構想を練って	て創造的に表現し	識をもって味わって
夫して構想を練ろうと	いる。	ている。	いる。
している。			

【共通事項】

- ・第2学年及び第3学年
 - ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
 - イ
 形や色彩の特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

4 研究主題との関連

視点		手だて	教師の準備、働きかけ	本時の生徒の
				具体的な活動
		・実際に抽象表現	・様々な作品を見られるようにプレ	・パウル・クレー、ヴァシリ
		による小作品	ゼンテーションソフトによるス	ー・カンディンスキー、コ
		を制作する場	ライドを準備し、多くの表現方法	ンスタンティン・ブランク
	体感する場面設定	面を設ける	や作家の考えに触れることがで	ーシらの作品を鑑賞し、そ
1			きる環境を準備する。	れらを参考に「香り」をテ
			・鑑賞した作品を参考に、抽象表現	ーマに作品を制作する。
			による作品制作に抵抗なく挑戦	
			できるよう小さなサイズで練習	
			や本番の用紙を準備する。	

	内云の亦	・鑑賞を制作の前	・ワークシートと小作品の作品解	「ドゥルカマラ島」を鑑賞
	内面の変	後で行い、自身	説、題名を付ける活動を行い、描	し、感想をまとめる。
2	容に気付く担否乳	の考えを言葉	画による表現だけではなく言葉	・自分の作品に題名と解説を
	く場面設	で残しておく	で自分の考えていることを残せ	付ける。
	定 		るようにする。	

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容B鑑賞(1)アを受け、美術作品などのよさや美しさを味わう活動を通して、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうことを目標としている。本題材では、抽象的な表現による作品の鑑賞をきっかけに、生徒一人一人が自身の表現や内面に迫り、鑑賞することの楽しさや、様々な表現方法があることの面白さを実感していく題材である。

第1次では、鑑賞活動後に生徒一人一人が実際に描き、抽象表現に挑戦をしていく。初めての表現方法に抵抗がある生徒もいるかもしれないが、テーマ設定を「香り」とし、自分自身の経験や感覚を通して考えることができるものに設定することで、誰もが抽象表現による作品を制作することができると考える。第2次では、第1次を振り返りつつ、自分が気に入ったと感じるものを作品としてまとめる。生徒一人一人の価値観や感じ方に対する考えを深めると同時に、表現方法に対する理解を深めていく効果が期待できる。本題材を通して、自分の制作の中に取り込むことが難しい「抽象表現」に挑戦させ、生徒の造形的な見方・考え方にさらなる広がりをもたせるきっかけにしていきたい。また、鑑賞と制作の両方の活動を通して、自分自身がもつ物事の見方や感じ方を客観的に把握し認識するきっかけにしていきたい。

(2) 教材観

本題材の導入では、多様な表現方法があることを生徒に理解させることに重点を置く。そこで、1点の作品をじっくりと鑑賞するのではなく、様々な芸術家の作品を多く鑑賞することで、表現方法が多様であることを実感できるようにする。今回はパウル・クレー、ヴァシリー・カンディンスキー、コンスタンティン・ブランクーシなど、理解することが難しい抽象表現の作品をいくつか紹介する。「何が描かれているのか分からない」、「作者の意図が読み取れない」等の感想があるかもしれないが、「なぜ分からないのか、意図は何なのか」と考えたことを伝え合うことにより、抽象表現の理解へつながると考える。その中から、パウル・クレーの「ドゥルカマラ島」を鑑賞し、作品の第一印象と、授業を通して変化するであろう考え方や捉え方を個人で比較する。とても優しい印象だが難解で奥が深いクレーの作品を鑑賞することで、生徒の造形的な視点が深まることが期待できる。

また、今回は鑑賞だけでなく抽象表現による作品制作にも挑戦する。制作の中で、「香り」といった感覚的なものテーマとし、そこから感じ取られるイメージを表現する。日常生活の中であまり意識をせずに過ごしている「香り」について改めて考えることで、身近なものの中から作品が生まれることの面白さに気付くことができるだろう。イメージをすることが難しい生徒には、石鹸やパンなど生活の中にあるものの香りを実際にかがせることで、そのものを使用する情景を想像したり、食べる時の感覚を考え

させ、表現活動につなげていく。「香り」をテーマにすることで、表現活動をより身近に感じながら、抽象表現に対する抵抗感をなくしていくことが期待できる。

(3) 教材・用具

生徒・・・筆記用具、教科書

授業者・・教科書、ワークシート、画用紙、鑑賞資料(プレゼンテーション)、書画カメラ 香りの参考になるもの(石鹸、パン等)

環境・・・美術室を使用し、テレビに作品を映す。書画カメラを活用し、生徒のアイディアなどもす ぐにその場で共有ができる環境を確保する。

6 指導計画(2時間扱い)めあて…□、研究の視点との関連…

次	時	○主な学習内容 ・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 (評価方法)
		抽象表現の作品	品を鑑賞し、作品の世界観を味わおう。	[7-(1)]
		○作者の言葉と併せて様々 な抽象表現の作品をスラ イドで鑑賞する。	◆第一印象で感じたことを、できるだけ根拠をもって 捉えさせる。	(観察・ワ ークシー ト)
		「ドゥルカマラ島」を鑑賞し、第一印象をワークシートに書く。	◆色や線、形に着目させる。◆制作につなげるため、どんな香りがしそうかイメージさせる声掛けをする。	(エー①)
第1次	1	○感想や気付いたことを全体で発表し、共有する。○ワークシートにテーマご	か音見け全体に紹介する	(観察・ワ ークシー ト)
		とにアイディアを描く。	いことを伝える。	【イー①】 (ワーク シート)
		○他の人のアイディアを見る。	◇できるだけたくさんの作品を見せることができるように多くの生徒の作品を選出し、書画カメラで提示する。	
		○次回の活動の確認をする。	◆本時の鑑賞した内容の確認や、次回の制作について の説明をする。	
		抽象表現による作品 〇前回の振り返りをする。	品を制作し、表現に対する理解を深めよう。 ◇「ドゥルカマラ島」をもう一度見せる。	[7-(2)]
		○前回のワークシートの中から、自分が気に入ったものを一つ決め、アイディアを深める。	◇生徒の作品を書画カメラで見せながら、前回の活動 の振り返りを行う。	(観察・ワークシート)
第2次	2	○本番用の紙に描き、作品 を仕上げる。	◆本番用の紙を準備し、テーマを意識しながら描くよ う改めて確認をする。 ◇題名を付ける時のポイント、無題の意味、作品解説	【ウー①】 (作品)
		○題名と解説を付ける。	の視点を共有する。	【アー①】 (作品)
		○全体で作品の鑑賞会を行う。	◇第一印象から、考え方や感じ方がどのように変化し たり発展したりしたかを意識させる。	[z -①]
		○改めて「ドゥルカマラ島」 を鑑賞し、感想を記入する。		(観察・ワ ークシート)

7 本時の指導 (1/2時間)

(1) 本時の目標

- ・抽象作品を鑑賞し、作品の世界観を味わうことができる。
- ・「香り」を基に想像力を働かせ、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練ることができる。
- (2) 本時の展開 めあて…□、研究の視点との関連…

時	○主な学習内容	◆指導上の留意点	【評価規準】
間	・生徒の活動	◇教師の支援	(評価方法)
導入	抽象表現の作品を	鑑賞し、作品の世界観を味わおう。	
5 分	○本時の目標の確認をする。	◆鑑賞する上で、初めて出合う表現にも前向きに関わる姿勢が大切であることを伝える。	
展開①20分	な抽象表現の作品をスライドで鑑賞する。 〇「ドゥルカマラ島」を鑑賞し、第一印象をワークシートに書く。 ○感想や気付いたことを全体で発表し、共有する。	 ◆第一印象で感じたことを、できるだけ根拠をもって捉えられるようにさせる。 ◆色や線、形に着目させる。 ◇色や線、形に着目させ、「どこにあるのか、どんな島か、気温、香り、雰囲気はどんな感じか」等、具体的にイメージできるよう声掛けをする。 ◇様々な意見が交流できるよう、発表者以外にも有効な意見は全体に紹介する。 	【アー①】 (観察・ワー クシート) 【エー①】 (観察・ワー クシート)
展開② 20 分 まとめ	アを描き出す。	 ◆たくさんアイディアを出すこと、失敗しても消さないことを伝える。 ◇「線を引く」、「塗る」、「円や四角、三角などの形を描く」など、個に応じて描くことを具体的に声掛けする。 ◇「構図」、「繰り返し」、「アクセント」など、今までに学習した技術を活用してもいいことを全体に声掛けする。 ◇香りの参考が必要な生徒には、準備した石鹸等の香りをかがせる。 ◇できるだけたくさんの作品を見せることができるように多くの生徒の作品を選出し、書画カメラで提示する。 ◆本時の鑑賞した内容の確認や、次回の制作についての説明をする。 	【イー①】 (ワークシ ート)
5 分			

(3) 板書計画

目標:作品の世界観を味わおう

パウル・クレー 線を大切にする画家

『ドゥルカマラ島』

…甘い + 苦い (造語)

パウル・クレー

『ドゥルカマラ島』 図版

抽象表現

香りを表現しよう 線、形、塗る

感想 気付いたこと、発見

成長したこと 変化したこと

第一印象 …象がいる、子供、

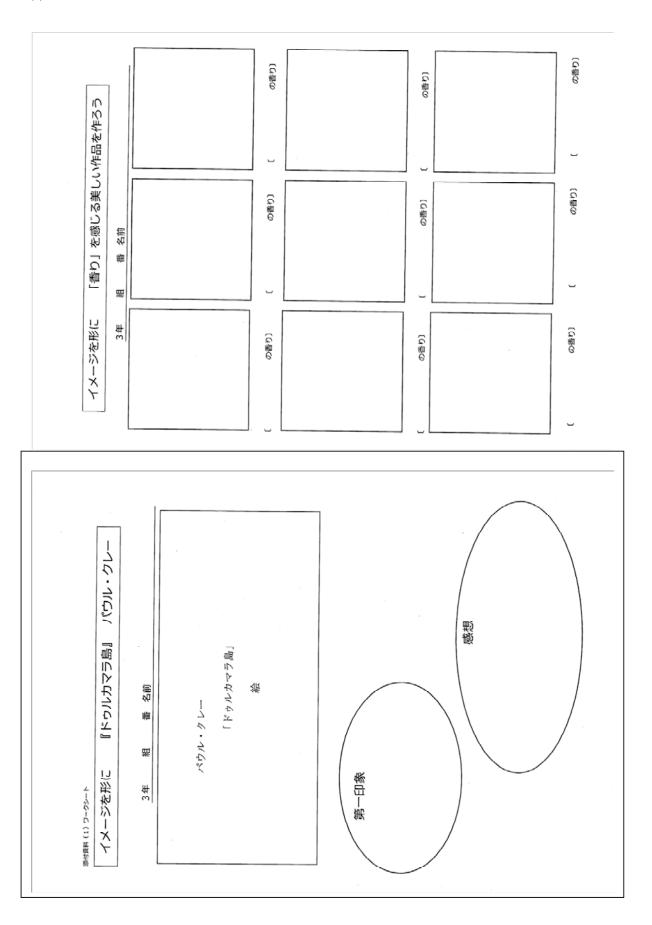
アラビア語みたい、不気味

気温は … 蒸し暑い、青いところは寒い

香りは … 草のにおい、甘いにおい

(4) 鑑賞資料 … 導入・展開・まとめと、備考に記した内容を踏まえてスライドを作成し、提示した。

(- /		と聞るたくパクトーを目がらい。近れられ
	作品	備考
導	具象表現 レオナルド・ダ・ヴィンチ 『モナ・リザ』 オーギュスト・ロダン 『考える人』 伊藤若冲 『群鶏図』 葛飾北斎 『富嶽三十六景神奈川沖浪裏』など	・今まで学習してきた作品を基に、「具象表現」と「抽象表現」を対比できるようにしながら鑑賞し、具象表現と抽象表現の特徴を捉えられるようにする。
入	抽象表現 ピエト・モンドリアン 『ブロードウェイ・ブギウギ』 ジャクソン・ポロック 『検索』 ヘンリー・ムーア 『家族』 コンスタンティン・ブランクーシ 『空間の鳥』	
	パブロ・ピカソ 『20 歳の自画像(青の時代の自画像)』 『パイプを持つ少年』 『泣く女』 『ゲルニカ』	・具象的な表現から抽象的な表現へと 変化していく様子が分かるように提 示する。
展	コンスタンティン・ブランクーシ 『空間の鳥』 『オットセイ』 『眠れるミューズ』	・平面だけでなく、立体で表現する場合にも抽象表現で表せるものがある ことが分かるようにする。
展開	ヴァシリー・カンディンスキー 『いくつかの円』 『ボートとの秋の景色』	・カンディンスキーが自身の作品を横向きに見た時に、自分が追求しようとしていた表現方法が見付かったというエピソードを紹介する。
	パウル・クレー 『黄金の魚』 『ニーゼン山』 『ドゥルカマラ島』	
まとめ	パウル・クレーの言葉 「芸術の仕事は、目に見えるものをそっくりに描くことじゃなくて、目に見えないものに形を与えることなんだ。」	・クレーの言葉で、抽象表現にどのような価値を見いだし、どのような気持ちで取り組んでいたのかを紹介する。



(6) 成果と課題 (パウル・クレー《ドゥルカマラ島》鑑賞)

【抽象表現に対する印象】(生徒の言葉:ワークシートから)

授業の冒頭	授業の終末 (振り返り)
・具体的なものを下手に描いた感じ。	・人によって全く違う見方や考え方が出てくるか ら面白い。
・意味が分からない。・不思議だ。	・具体的にものが描かれている作品よりも、見る 人が自由に解釈できるので面白い。・今までは絵や彫刻を理解しなければいけないと
・理解できないから「まさに芸術」という印象だ。	思っていたけれど、正解があるわけではないこ とが分かった。
・正気では無い精神状態で描いた感じ。	・今回、ドゥルカマラ島を鑑賞して、芸術に対するハードルが少し下がった気がした。
・失敗作だ。・間違えた作品だ。	・今までの自分には無い表現方法で、とても新しいと感じた。
・あまり深く考えたことがない。	・私は、抽象画の方が好きだと思った。・目に見えないものを表現するのは難しいけれど、表現するために考えるのは面白かった。・目に見えないものを描くという発想が新鮮だ。
1	I I
理解できない等、マイナスイメージをもっている生	肯定的な見方、考え方へと変わった生徒が授業実
徒が授業実施生徒数の約8割を占めた。	施生徒数の9割を超えた。

【ワークシートの記述の変化について】

授業の冒頭	授業の終末 (振り返り)
・マイナスイメージに関連する言葉を使用し、端的に述べている。・言葉を分類しても、同じような言葉に留まる。	 ・プラスイメージに関連する言葉を使用し、どのようなところに魅力を感じたかについて詳しく述べている。 ・言葉を分類すると、面白さやよさを述べる視点が増え、具体性が出てきた。 ・物事の捉え方について、従来の自己の捉え方ではなく、広い視野で物事を捉え表現することの面白さを実感できたという記述が多かった。

全体的に、表現に対する考え方に大きな変化があったことが生徒の感想から読み取れた。抽象表現の第一印象として、このような表現になかなか接する機会が少ない生徒が多く、芸術作品に対して敷居の高さを感じている生徒が大半を占めていたことが分かった。また、「上手い絵」=「写真のような絵」というイメージをもっている生徒もおり、一見して何を描いているのか分からない抽象表現は、どちらかといえばマイナスな評価になる傾向があった。

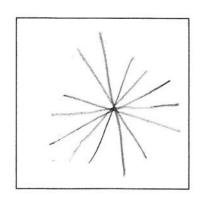
しかし、授業後の感想では作品に対して肯定的な意見が増え、「面白い、新しい」と捉える生徒が大幅に増加した。前半の鑑賞活動の中では、生徒に感想を言わせる際に、「どうしてそう感じたのか」という理由を考えさせ、全体で共有していくことで、作品をよく見るきっかけを作ることができていたと感じる。また、小作品の制作の際はすぐに絵画表現に入ることが難しい生徒も多数いたが、言葉を使いながら連想ゲームの形式でアイディアを広げていき、最終的に出たいくつかの言葉をヒントにして描いていくことで、ほぼ全員の生徒が作品を一つ以上描くことができていた。また、授業の中で考えたことを発展させていく際に、最初に自分の考えをまとめ、その後全体で意見を共有することで、自分の見方と友達の見方を比べ

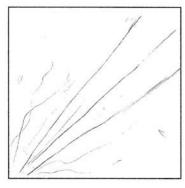
る流れが教室全体にあったように感じる。教師との対話も含め、簡単な言葉やちょっとした意見でも気軽 に発信できたり、聞き合ったりできる授業の雰囲気作りを普段の授業から作り上げていくことが、鑑賞の 授業に広がりをもたせることにつながっていた。

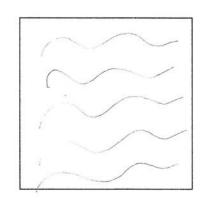
一方で、なかなか自分の考えをまとめることができない、取り組めない生徒も若干名いた。生徒全員が 少しずつでも参加ができるよう教師が教室全体を見渡し、生徒の意見を拾っていく必要があると感じた。

【生徒の取組の様子】

・「ミントの香り」を抽象表現で表す

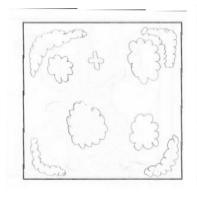


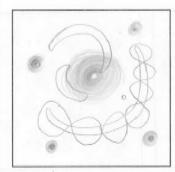




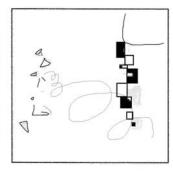
・「甘い香り」を抽象表現で表す

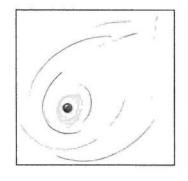


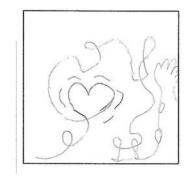




・「祖父母の家の香り」を抽象表現で表す







(7) 研究の視点に関する成果と課題

	視点	手だて	○成果 ●課題
	体感する定	・実際に抽象表現に よる小作品を制 作する場面を設 ける。	 ○《ドゥルカマラ島》の鑑賞後に、実際に抽象表現に挑戦することで、生徒が表現について体験を通して考えるきっかけとなっていた。 ・鑑賞後にすぐに自分で描いてみることで、クレーの心情を想像したり、表現の工夫を振り返ることができた。 ・ワークシートに小さな作品として描いていくことで、思考を記録として残すだけでなく、体験の記録として言葉ではなく絵画表現で自身の考えを整理することができた。 ○ICT機器を活用することで、具象と抽象の違いについて幾つもの作品を提示し、生徒が作風を比較して見ることができた。また、具象を極めて抽象へ表現を移行した作家やクレー等の芸術に対する考え方を提示することで、表現することの意味や抽象のよさについて生徒が考えを深めることができていた。実際に、ワークシートには、クレーの言葉を受けて、考え方が大きく変わったと記している生徒も多数いた。自分の考えを構築するためにも、一定の知識を得た上で考えることも必要になってくる。スライド資料の工夫により、生徒の思考を深める手だてになっていた。 ●鑑賞と描く活動を50分で取り組むのは時間的な制限が大きく、慌ただしくなってしまった。描く活動が苦手な生徒にも描く時間を保証できるよう全体の組み立ての工夫が必要であった。 ●資料の作品をプレゼンテーションで提示したが、モニターの大きさに関わらず大きく投影する方法や部分的に必要に応じて拡大して映すことが即時にできるとよい。プロジェクターやタブ
2	内面の 変容に 気付く 場面設定	・鑑賞を制作の前 後で行い、自身の 考えを言葉で残 しておく。	レット端末の活用も学校の設備状況に応じて使用できるとよい。 ○第一印象をまとめる際に「簡単な言葉、短い言葉でもよい。」という指示が生徒にとって前向きに表現する姿勢につながったと感じる。抽象表現に対して抵抗感のある生徒も、単語で自分が感じたことを残すきっかけとなっていた。 ○小作品の作成後に感想を記入したため、作品の感想と描いた体験の感想を交えて記入できた生徒が多く、描く活動がうまくいかなかった生徒も言葉で感じたことを残すことができた。 ○その後に取り組んだ抽象表現による水墨画の制作において、自分の表現に対して意図をもって工夫をして試行錯誤する姿勢や、他の生徒の作品に対して「かっこいい」、「おもしろい」といった肯定的な受け止め方が増えていた。 ○自分自身の表現に自信をもち、「伝わりにくいかもしれないけど、こんな意図がある」という自信をもって取り組む姿勢の生徒が大多数を占めるようになった。

〔検証授業 2〕

1 題材名 「日本の美を見付けよう〜風呂敷の鑑賞を通して〜」 B鑑賞(1)ウ 共通事項(1)ア 対象 第2学年

2 題材の目標

- ・風呂敷について関心をもち、生活を豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める。
- ・風呂敷のデザインのよさや美しさを感じ取り、意見交換や相互鑑賞を通して、自分や他者の個性や価値観に気付き、自己認識を深める。

3 題材の評価基準

ア 美術への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
①風呂敷のよさや美しさに関心をもち、主体的にデ	①風呂敷のデザインの色や構成の美しさ、工夫な
ザインの美しさや工夫などを感じ取ろうとしている。	どを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わ
	っている。
②風呂敷の歴史及び使い方や機能に感心をもち、主	②他者との意見交換や相互鑑賞を通して、風呂敷
体的に日本の美術文化への理解を深めようとして	及び日本の美術文化のよさを味わい理解して
いる。	いる。

【共通事項】

・第2学年及び第3学年

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

4 研究主題との関連

				本時の生徒の
	視点	手だて	教師の準備、働きかけ	具体的な行動
	体感する	・様々な模様の風呂敷	・様々な風呂敷を見て、触ることができ	風呂敷を用いて、
	場面設定	を使い、ものを包む	るように、大きさや柄の異なる風呂敷	いろいろな包み
		体験をする。	を用意する。	方を実際に行う。
1			・風呂敷でものを包む効果を体感できる	
			よう、最初に白い不織布で包ませる。	
			その後、同じものを風呂敷で包み、見	
			え方がどう異なるかを問い掛ける。	
	題材を生活	・風呂敷の歴史や生活	・風呂敷の歴史や用途について「包む」、	様々な風呂敷を
(a)	や社会と関	のなかでどのように	「願う」、「祈る」、「美」をキーワードに、	鑑賞し、感想をま
2	連付ける場	活用されているかを	ICT機器を活用し紹介する。	とめる。
	面設定	知る。		

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容B鑑賞(1)イを受け、生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、身の回りの自然物や人工物、身近な環境に見られる造形、文化遺産などの造形的なよさや美しさを感じ取り、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考え、見方や感じ方を広げたり深めたりすることを目的としている。

風呂敷は日本に古くからあり、生活の中で活用されてきたものである。また、ものを布で包むという 行為は海外からも注目されている。しかしながら、現在の中学生が風呂敷を使用することは決して多く はないと思われる。そこで導入段階から、風呂敷にいかに関心をもたせるか、学習展開を工夫していき たい。

第1次に風呂敷についての説明を聞き、実際に風呂敷を用いて様々なものを包む体験を行う。そこで、 風呂敷の機能や包むことによって生まれる美しさなどを感じ取らせたい。また、同じ形を白の不織布で 包む体験の後に風呂敷で包む体験をすることで、印象が大きく変わることから、風呂敷で包んだ際の柄 の見え方、色のコントラスト等の面白さに気付くと思われる。この気付きを生かし、第2次では、日本 の文様および、日本の色彩について学習する。そこで、吉祥文様や日本の四季や自然に基づく独特の色 彩について興味・関心を喚起させ、日本の独特な色彩感覚、美意識について考えられるようにしたい。

ものを包む体験を通して、風呂敷の魅力や機能性に気付かせていくとともに、グループでものを包む体験を行うことで、一人一人の考えを互いに尊重する雰囲気の中で、デザインのよさを伝え合い、話し合って見方や考え方を広げられるようにしたい。実際に風呂敷を使ってものを包む過程で感じられる雰囲気の変化を実感することで、生徒自ら色彩や素材、構成美の要素をはじめ、風呂敷を広げたときと、ものを包むときで現れる布の表情の変化とその美しさを味わうことを目的としている。

(2) 教材観

授業に使用する風呂敷は、大きさは汎用性が高い二巾 (68cm から 70cm) のものを用意している。生地は風呂敷の多くに使われている「ちりめん」を使用し、しぼの凹凸で生まれる色の深みや風合い、また包みやすさを実感できるようにしている。柄も、四季の移ろいを感じさせる草花や運気隆盛、子孫繁栄などの願いを込めた吉祥文様や、日本人に最もなじみのある浮世絵をモチーフに選んだ。広げた時の美しさだけでなく、包んだ時にこそ現れる変化や表情にこだわってデザインされたものである。

柄の構図や色合い、デザイン性等について多様になるように選ぶ。

(3) 教材·用具

生徒 …筆記用具、教科書、風呂敷

授業者…教科書、ワークシート、鑑賞資料 (プレゼンテーション)、書画カメラ、風呂敷、包む対象 (箱、瓶、ボールなど)

環境 …美術室を使用し、テレビに画面を移す。書画カメラを使用する。

6 指導計画(2時間扱い)

次	時	○主な学習内容・生徒の活動	◆指導上の留意点 ◇教師の支援	【評価規準】 (評価方法)
第1次	1	〈風呂敷との出合い〉 ○風呂敷について理解を深める ・風呂敷の歴史等を知る。 ・風呂敷を使ってものを包む体 験をする。	◆風呂敷を鑑賞し、実際に包んでみる。 広げてみたときと包んでみたときの見 え方の変化を意識させる。 ◇自分が魅力を感じる風呂敷の柄や構成 などに注目させる。	【アー①】 (観察・ワーク シート) 【エー①】 (観察・ワーク シート)
第2次	2	〈日本の美に触れる〉 ○日本の美について理解を深める ・日本の文様について学ぶ。 ・日本の色彩について学ぶ。	◆様のもつ形や意味について注目させる。 ◇日本の色彩が自然や四季と深く結び付いていることを紹介する。	【アー②】 【エー②】 (観察・ワーク シート)

7 本時の指導 (1/全2時間)

(1) 本時の目標

風呂敷の鑑賞を通して、風呂敷に興味・関心をもち、よさや美しさに気付く。また生活の中にある美術文化を愛好する気持ちを育てる。

(2) 本時の目標 めあて… ____ 研究との関連… _____

				学習活動に
時	主な学習内容		◆指導上の留意点	即した
時間			◇教師の支援	【評価規準】
				(評価方法)
	○学習内容を	を知る		【アー①】
	<u> </u>		AI呂敷のよさや美しさを感じ取ろう	[エー①]
		·		(観察)
	○事前アンケートの		◇素直に自分の意見を言える雰囲気をつくる。	
導入	風呂敷に対するイ			
	メージを紹介する。 ○風呂敷の歴史と概			
			<u> </u>	
			◆風呂敷を触ってみて、正方形ではないことやその大	
	要について知る。		きさについて確認をする。	
			\i	

	○真結びを練習する。○風呂敷で実際にものを包んでみる。	◇縦結びとの違いに気付かせる。◆実際に生徒に風呂敷を使って、様々な大きさのものを包ませる。◇各グループに風呂敷を配布する。	【アー①】
	○白い不織布で包んだときと実際に風 だときと実際に風 呂敷で包んだとき の違いについて、 気付いたことをワ ークシートに書く。	◆最初に白い不織布で包む体験をし、その後同じものを風呂敷で包んでみて、違いに注目させる。 ◇風呂敷を広げた時と、包んだ時とで見える表情が異なることに気付かせる。	【エー①】 (観察) 【エー①】 ワークシート
展開	○与えられた風呂敷の柄が引き立つようなものを包んでみる。○グループごとに、包んだものそこから気付いたことを	◇包み方によって柄の見え方の違うことを伝える。◇色彩や生地の質感、包んだ時の造形の面白さなどを注意して鑑賞するように伝える。	
	発表させる。 〇他のグループの風 呂敷で包んだもの をみて美しい、面 白いと思う風呂敷 のデザインを選 び、理由を書く。	◇自分が気になる、惹かれるものについて、どこが若しくは何がそう感じるのかを意識して鑑賞するように伝える。◇魅力を感じた風呂敷のデザイン等のポイントを表にして各自まとめさせる。	
	○発表する。	◆どの意見も尊重して、話を聞ける雰囲気を大切にする。 ◇多様な考えを全体で共有するため、できるだけ多くの生 徒に発表させる。	
まとめ	○次回の活動の確認 をする。	本時の鑑賞した内容の確認や、次の時間についての説明をする。	

(3) 板書計画

目標:風呂敷のよさや美しさを感じとろう

1)	2	3	4	5
6	7	8	9	10

風呂敷

日本の包む文化

包む 願う 祝う 美

与えられた風呂敷を使って、効果的に見える ように包み方を工夫しよう。

第一印象は... 地味、古い、使い方が分からない。

(4) ワークシート

	風呂敷を鑑	長賞しよう	真 結 び		
① ① 自分	◇ の班の風呂敷				
番号	色、模様、質感 の特徴例)浮世絵の〇〇がモチーフになっている 〇〇の花が描かれている	美しい、面白いと思ったところ 例)包んだときに、柄が半分だけ見えるのが美しい 類など背の高いものを包むとかっこいい	1)	2	3
			緑を前にして 交差	緑を後ろへ回して 赤に巻き付け前へ	緑を左に折る
			4	(5)	
②他の	班の風呂敷		赤を緑の上からかぶ	赤と緑をぎゅっ	
番号	色、模様、質感 の特徴	美しい、面白いと思ったところ	せて、できた輪こした からくぐらせる	かと縁をさゆうと結べば完成!	
			ほどき方		
			1)	2	3
3今日の)授業を通して気付いたこと、感想を書こう。		左手で緑の下を、右手	1、緑の先端を右へグ	結び目を右方向に
			で緑の上を持つ	ッと引っ張る。 2、緑に絡まってい る、赤の結び目を	引き抜く。

※「真結び」「ほどき方」は、風呂敷の右端(赤)と左端(緑)に色を付け、イラストと合わせた説明にした。

(5) 鑑賞資料

① ・地の色が薄いグレー ・かきつばたの柄が風呂 敷の斜め半分を占める ・ちりめん、友禅	② ・地の色はピンク ・蓮の葉と花の柄が大き く描かれている柄	③ ・中央に着きを連想させる大きな円が描かれており、円周に沿って草花が描かれている	4 ・地の色は赤 ・熨斗のし柄	・風呂敷の面が四分割に 色分けされている・四角取名物裂
⑥ ・浮世絵 赤富士	⑦・浮世絵 水道端鏡可台	・斜額名取名物裂	・浮世絵 神奈川沖浪裏	①・浮世絵 写楽

※①から⑩の風呂敷の主な特徴。ものを包んだときに、色や柄の形等が多様に変化するものを選んだ。

(6) 成果と課題「日本の美を見付けよう~風呂敷の鑑賞を通して~」

事前・事後のアンケートにより、風呂敷に対する興味・関心、使用回数、また日本の美術文化に対す る調査を行った。

【事前のみの調査項目】

風呂敷を使ったことがある

ある…42%

ない…58%

○ まわりで風呂敷を使っている人がいる

いる…18%

いない…82%

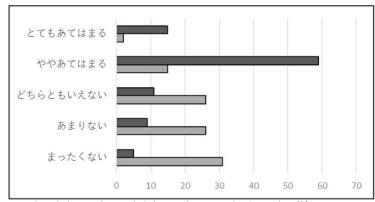
【風呂敷に対するイメージ】(授業前)

- ・大事な着物や、ものを包んで持ち運びやすくするもの
- 風呂敷がわからない
- 何かを包むもの下に敷くもの

- 昔の人が使っている
- 泥棒がもっている
- ・便利、いろんな使い道がある、色とりどり、結び方も様々

【事前・事後で調査した項目】

ア 風呂敷に興味関心がありますか。

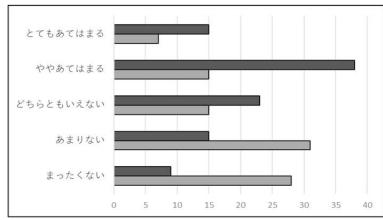


とてもあてはまる・ややあてはまる:17%から74%へ増加 あまりない・まったくない:57%から14%へ減少

【生徒の振り返りより】

- 風呂敷には柄など、使う人の思いが 込められていて、とても奥が深いと 思った。
- 風呂敷には面白みがないと思ってい たが、深く濃いと感じた。
- 思っていたより、利便性がある。種 類も多彩で様々な用途で使用できる。
- あまり使い道のないものと思ってい たが、様々な意味や使い道があって すごいと思った。
- 単なる「包むもの」だったが、見た 目をよくし、相手に敬意を示す、す ごい布だという。
- 前まではただ包むものというイメー ジしかなかったけれど、包み方も 様々で柄もたくさんあり、日本を表 す文化というイメージに変わった。
- 泥棒の持ち物だと思っていたが、唐 草文様のほかにも美しい文様がたく さんあって感心した。

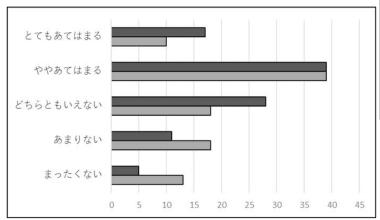
イ 風呂敷を使ってみたいと思いますか。



とてもあてはまる・ややあてはまる: 22%から73%へ増加 あまりない・まったくない: 59%から24%へ減少 授業前は風呂敷への興味関心にたいして、肯定的な意見が約2割程度であったが、授業後は約7割の生徒が風呂敷を使ってみたいという肯定的な意見に変化している。

興味関心に関しては、どちらともいえないと答えた割合が減少し、最終的に否定的な回答の生徒の割合は 14%まで低下した。

ウ 日本の美術文化に興味・関心がありますか。



とてもあてはまる・ややあてはまる: 49%から53%へ増加 あまりない・まったくない: 31%から16%へ減少

- ・ 風呂敷は日本人の心の美しさを表現していると感じた。
- ・ 自分自身、日本人なのに日本の美 術文化について全く知らないなと 感じ、もっと知りたいと思った。
- 日本の昔の作品やデザインは今でも通用する。

日本の美術文化に関する興味関心が 低い生徒の割合が約3割であったが、 授業後は5割程度の生徒が肯定的な回 答をしている。なかでもとてもあては まると回答している生徒の割合が10% から17%へ増加した。

肯定的な意見は増加しているもの の、日本美術文化に対する興味関心を 促していく必要がある。

【日本の美術文化に対する感想】

○ 肯定的な感想

- 「使いやすい」と「美しい」が兼ね備わっていて、 とてもきれい。
- ・日本文化は世界的に見ても美しい。
- ・浮世絵などの日本の伝統文化が好き。きれい。
- ・江戸の作品は今と違って面白い。自分の国の文化は深く 知っておきたい。

● 否定的な感想

- ・海外の文化に興味があり、とくに今は日本文化に興味がない。
- ・日常生活であまり触れることがない。
- ・生活において不要だから。
- ・つまらないから。

本校では、日本の美術文化について、時折授業で触れているため、積極的によさを感じている姿や肯定的なコメントも見られた。一方で、生活とのつながりを実感できないことから、否定的なコメントを

書いている生徒もいた。

授業では、人々が古くから用いてきた風呂敷を題材にすることで、日常生活の中で使うものに美しさ や面白さを見出す日本人の精神性にふれた。実際に授業で様々な文様や柄の風呂敷に触れることで、授 業後には以下のように生徒の考えが変化した。

【授業のワークシートより】

- ・ いろいろな風呂敷の柄が奇麗だった。ものによって風呂敷の柄をどこにもってくると美しいかを考えられていて素敵だった。日本文化に触れられて楽しかった。
- 家には風呂敷がないので、風呂敷を買って何かを包んで家に飾ってみたいと思った。
- ・ きれいな模様ばかりだった、簡単にはほどけないのに簡単にほどける結び方を考えついたのはすご いと思った。結び方にも工夫してきれいに見えるようにすることも大事だと思った。
- ・ 風呂敷の柄によって、包むものや、包み方を工夫することで、美しく見えるようになるのだと思った。そこまで考えられて作られているだと知って、日本の昔からの文化の奥深さを感じた。
- ・ 風呂敷は面白みがあまりないと思っていたが、授業を受けたことで、風呂敷には日本人の美しい価値観や感性が込められていると感じた。

風呂敷に対する印象には、かなり変化が見られた。包んだ時の柄も楽しめるような様々なタイプの風呂敷を用意してあったこともあり、色や柄楽しみながら包むことができた。実際に、美しい風呂敷を使って包むという行為を通して、風呂敷に対する興味・関心が高まっていることを生徒の姿やワークシートの感想から感じた。授業後のワークシートの記述から、生徒は個々の視点で風呂敷のよさや面白さを実感し、新しい発見があったようでほぼ全員が肯定的な内容を述べていた。

授業では、風呂敷の歴史、真結びの方法を学ぶ、その後白い不織布で包み、同じものを風呂敷で包んでみて比較する、という流れで取り組んだが、もう少しじっくり取り組む時間を確保する必要がある。 真結びを習得するのに時間がかかり、包んで結ぶことに気を取られてしまい、風呂敷の包んだときの美しさを味わうところまでいかなかった生徒もいたようである。風呂敷の柄や結んだときの美しさを感じるには、もう少し、時間のゆとりが必要であると感じた。

また、事前に全員の生徒が風呂敷を持参するようにしたが、それらをあまり生かす時間が確保できなかった。自分が持ってきた風呂敷を互いに紹介する時間をとってもよい。これから文様、色彩と学習は進んでいくので、日本の美というものが、個々の生徒の心に残るよう指導していく必要がある。

(7) 研究の視点に関する成果と課題

	視点	手だて	○成果 ●課題
	体感する場	・様々な模様の風呂	○様々な柄の風呂敷に触れ、大きさの異なるものを包む経験
	面設定	敷を使い、ものを	を通して、風呂敷の美しさ、包んだときの柄の見え方の変
1		包む体験をする。	化に気付くことができた。
			○包むことを想定してデザインされた風呂敷のよさを味わう
			ことができた。

			○グループで風呂敷の特徴を考え、包むものを選び、風呂敷
			のよさが生きるような包み方を試す時間があることによ
			り、風呂敷の良さを共有し、生地の色や柄の形、構図のよ
			さ面白さに気付くことができていた。
			●生徒が持参してきた風呂敷の活用方法に検討が必要。
			●真結びの習得に時間がかかってしまった。柄の見え方の美
			しさを味わう時間があまり取れなかった。
	題材を生活	・ 風呂敷の歴史や生	○ICT 機器を活用して、視覚的に風呂敷の歴史を紹介した。
	や社会と関	活のなかでどの	○4つのキーワード「包む」「願う」「祝う」「美」を提示して
2	連付ける場	ように活用され	風呂敷の柄に込められ意味を紹介することで、視覚的な美
	面設定	ているかを知る。	の捉え方、精神的な美の捉え方など、日本の美的感覚につ
			いて考えることができていた。

生徒の様子としては、風呂敷のよさや面白さに大いに興味・関心をもったようである。贈り物をする際にものを包むものの色や柄、素材によって印象が変わるという効果に気付いた生徒も多く、「この風呂敷だったら〇〇を包むのにいいね」と楽しみながら包む体験をしている生徒が多く見られた。中には、自分の持ってきた風呂敷を改めて見直し、今まで意識していなかった淡い色遣いに暖かさを感じたり、日本の伝統的な柄やダイナミックな構図に改めて興味をもったりしている生徒もいた。1枚の風呂敷ではあるが、包み方を変えることで雰囲気が変わるため、熱心に何回も包んでは開き、包んでは開きを繰り返し、自分が納得する包み方を模索している姿も多く見られた。

身近にありながらも、普段は何気なく見過ごしてしまう生活用品である風呂敷のよさや面白さを考え させる機会は、授業で学んだことを日常生活の中での発見等につなげることができたと感じた。

Ⅲ 成果と課題

成果としては、題材を通して経験し、学ばせたいことについて、体感する場面を設定することや内面の変容に気付く場面を設けること、題材を通して分かったこと、考えたことなどを実生活の中でどのように活用されているかを考えるきっかけをつくることで、ものの美しさや面白さ、よさ等を発見したり、再認識したりすることができていたと考える。

指導に当たっては、何を題材としどのよう取り組ませるか、授業のなかで何を気付かせるのかという 「ねらい」を明確にし、内容を精選することを意識した。

美術の授業は、生徒一人一人が、作品制作や鑑賞の活動を通し、様々なことを考え、見方や感じ方を 広げるための基盤をつくる貴重な時間であると考える。何かを見たとき、そこから感じる心、見るべき 視点が育っていれば、そこから生まれる発想や感情が、それぞれの経験、ひいては人生を豊かなものに してくれる。しかし、その視点がなければ、同じものを見ても、同じ体験をしても感じることや考える ことができない。そのためにも、授業の中では、題材に取り組み作品を作ることや知識を得ることのみ を目的とするのではなく、題材を通してどのような力が身に付いたのか、新たな気付きがあったのか、 というところを生徒一人一人が認識することが重要である。

今回の検証授業1では、抽象絵画の鑑賞を行い、色や形のないものを表現する活動を行った。抽象絵画を授業で取り上げ、鑑賞活動後に生徒一人一人が抽象表現を用いた小作品の制作に挑戦したことで、抽象表現に対するイメージが肯定的なものへと大きく変化した。実際に描く活動を通して、鑑賞する行為が以前よりも身近になり、自分の価値意識をもって作品を味わうことにつながったのではないかと考える。また検証授業2の風呂敷の鑑賞では、ただ「風呂敷を見る、使う」ということにとどまるのではなく、風呂敷に描かれている文様や日本の伝統色にふれ、身近にあるものから日本の美のよさに気づくことをねらいとした。導入段階では実際に生徒の家庭にある風呂敷を持参させ、その風呂敷のエピソードもふまえてお互いに紹介させた。さらに実際の風呂敷を用いて、色んなものを包む経験を通して風呂敷の色・柄・手ざわりから、それぞれの風呂敷の特徴や美しさを見出し、そこに込められた日本人の精神性や繊細な感性にふれ、日本美術文化に気づくことを目的とした鑑賞を行った。

実際に授業を行ってみると生徒の実態や反応から、改善すべき点もあった。例えば、ついあれもこれもと内容を盛り込みすぎてしまい、生徒に振り返りの時間を十分に確保することが難しい場面もあった。また学校事情によっては、途中で教科担当教員が変わってしまい、3年間を通じて計画的に積み上げていくべき学習内容が不十分な分野もあった。

今回の研究で取り組んだように、生徒の現状を把握し、どのような力を身に付けさせたいのかを明確にし、視点をもった題材計画、授業展開を行うことで、生徒の気付きが広がり、考えが深まることが分かった。実態に応じた視点を吟味し、日々の授業に生かすことは簡単ではないが、学びの充実のために、授業者として何か大切かということを研究を通して実感することができた。今回の取組を、今後の授業に生かしつつ、さらに課題を改善できるような授業研究を行っていきたい。

平成 29 年度 教育研究員名簿

中学校•美術

学校名	職名	氏名
千代田区立九段中等教育学校	主任教諭	樫 原 純 子
町田市立町田第一中学校	教諭	◎渡邉 香織
多摩市立青陵中学校	教諭	神 田 ちひろ

◎ 世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター 研修部 教育開発課 指導主事 菅 野 恭 子

平成 29 年度

教育研究員研究報告書 中学校 · 美術

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集·発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 (03) 5320-6849

印刷会社 康印刷株式会社

